

## 第126回長崎大学経営協議会議事要録

1 日 時 令和4年3月28日（月）13時30分～15時12分

### 2 審議事項

(1) 期末手当の引下げに係る長崎大学職員給与規程等の一部改正について

理事（総務担当）から、資料2に基づき、国家公務員の給与改定を受け、長崎県においても国家公務員に準じた改定が計画されていることを踏まえ、本学においても検討した結果、賞与の改定を行う必要があると判断したため、期末手当の引下げに係る長崎大学職員給与規程等の一部改正を行うことについて説明があり、審議の結果、了承された。

また、概ね以下のような意見交換があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

- ◎ 今回は遡及せずに期末手当の引き下げを行うということか。
- 遡及しない。これまでは引き上げは遡及していたが、いいところ取りというのは対外への説明がつかないので、今後は引き上げるときも引き下げるときも遡及しないことにしたい。

(2) 令和4年度 長崎大学予算内示の概要及び学内当初予算配分について

理事（財務・施設担当）から、資料3-1及び資料3-2に基づき、令和4年度国立大学法人運営費交付金における本学関係の状況及び共通指標の評価結果等について報告があった後、令和4年度の学内当初予算配分について説明があり、審議の結果、了承された。

また、概ね以下のような意見交換があった。

（◎は学外委員，○は大学側の発言）

- ◎ 今後、収入を増やすためにどのような方策を行うのか。
- 民間との共同研究を行い、国からの競争的資金を獲得して、付随する間接経費を増やしていくことを考えている。授業料を値上げすることも可能ではあるが、授業料を値上げすると、それに対する教育の質の向上につながる新たな取組を行わないと学生や保護者の理解が得られないため、授業料の値上げは大学の収入増には寄与しない。
- ◎ 世界では、起業家によって民間企業と共同して収入を増やしている大学があると聞く。また、OBからの寄附金を増やす取組を行ってはどうか。
- 西遊基金の寄附を増やすための取組を行っている。毎年寄附をいただけるサポーターを増やして教育研究に計画的に使えるくらいまで寄附金を増やしていきたい。
- ◎ 自分たちがどういうところで勝負するのかを各部局が考える必要がある。  
政府の様々な施策をパッケージしようという議論がされているが、なかなか進んでいない。長崎大学は、グローバルヘルスの問題等で強みを持っているため、長崎県等の自治体と連携する、また、その領域の中で新たなイノベーションを起こして世の中に出していくことが重要ではないか。研究者個人でやるのではなく、色々な専門知が集まるための工夫が必要になる。
- 大学振興パッケージがどのようなものなのかは学内で共有している。大学としてアプライできるものがどれだけあるのかという戦略を練っているところである。国等からの予算の獲得だけではなく、民間との共同研究等を増やしていかなければならないと考えている。

- (3) 令和4年度資金繰計画（案）及び余裕金運用計画（案）について  
理事（財務・施設担当）から、資料4に基づき、長崎大学資金管理規程第4条、長崎大学資金運用細則第11条に基づき、令和4年度資金繰計画（案）及び余裕金の運用計画（案）について説明があり、審議の結果、了承された。
- (4) 経営協議会から選出する学長選考・監察会議委員の選考に関する基本方針について  
理事（総務担当）から、資料5に基づき、国立大学法人法の一部を改正する法律が令和4年4月1日に施行されることに伴い、学長選考・監察会議の中立性・公正性を担保するため、経営協議会における学長選考・監察会議委員の選任方法や選任理由を公表する必要があることから、経営協議会から選出する学長選考・監察会議委員の選考に関する基本方針を新たに策定することについて説明があり、審議の結果、了承された。

## 10 報告事項

- (1) 高度感染症研究センターの設置について  
理事（研究・社会連携・戦略企画担当）から、資料6に基づき、令和4年4月に感染症共同研究拠点を改組し、高度感染症研究センターを設置するとともに、高度感染症研究センターの附属施設としてBSL-4施設を設置することについて報告があり、概ね以下のような意見交換があった。  
（◎は学外委員，○は大学側の発言）
- ◎ BSL-4施設間のグローバルなネットワークはあるのか。
  - 海外のいくつかのBSL-4施設とは共同研究を行い、人的交流を深めている。人材育成は重要になるため、今後も強化していきたい。
  - ◎ 地域のコミュニティがバイオリスクに対して懸念を示しているか。
  - 地域には、BSL-4施設の設置、稼働に反対している方もいる。これまで、地域の方々との会議である地域連絡協議会を設置し、施設に関して説明する等、継続的に活動を行ってきた。BSL-4施設では、地域の方々との連携は重要になるため、リエゾン推進室を中心に今後も続けていきたい。
- (2) 調達に係る発注・検収体制について  
理事（財務・施設担当）から、資料7に基づき、調達に係る発注・検収体制の整備について報告があった。
- (3) 最近の大学の主な動きについて  
本件については、事前に送付した資料により確認いただいているため、資料配付のみとした。

## 11 その他

- (1) 令和4年4月以降の経営協議会委員について  
議長から、資料9に基づき、令和4年4月以降の経営協議会委員及び令和4年3月31日限りで退任する武田委員の紹介があり、同委員から退任の挨拶があった。

(以上)